

とは出来ない。獨りこれを虐待すべからざるのみならず、又これを甘やかして孱弱なる訓練なき者としてはならぬ。兒童に對しては、己が子たる人の子たるを問はず、常に恐懼して自分の仕付が適當でなかつたり、教育法を誤つたりして、時代の寶を毀けぬやうにと考へなければならぬ。我國

の現時の人の父母たる人々は果して何の種の觀念を以て兒童に對して居るかと云ふことは私が申し上げるよりも皆さんの判斷に御任せたいと思ひます。要するに兒童に對する尊敬の念が起つて、始めて兒童に對する觀念の晩近の進歩に應ずる所以と私は考ふるのであります。

教育系統上幼稚園の保つべき地位

——(フレイベル會第十八回總會に於ける講演)——

東京女子高等師範學校教授
文部省視學官

楨 山 榮 次

△曖昧なる地位にあ

る幼稚園

今日此の會に出席致しまして皆様にお話を致す機會を得ました事は私の光榮に存する所でありませぬ。私のお話は唯今御紹介になりましたやうに、

ります。私の考は或は間違つて居るかも知れませんが、私の觀る所では、幼稚園の今日教育系統上に保つて居る地位が甚だ曖昧で、そして其の地位の曖昧であることは即ち幼稚園の充分に發展しない主なる原因となつて居るのではないかと思ふのであります。

『教育系統上幼稚園の保つべき地位』といふのであ

明治四十三年の文部省の統計に依て見ると、我

全國の幼稚園の數は四百七十五、これを尋常小學校の二萬五千二百七十五に比べてみると、百に對する一、八の割合に當る。そして其幼兒の數は三萬八千二百二十二、これを尋常小學校の兒童數六百三十二萬九千八百六十四人に比べて見みると、千人に付六人の割合になつて居ります。併しながら幼稚園の年限は三ヶ年、尋常小學校の修業年限は六ヶ年であるから、尋常小學校の兒童數を二に分けて比べると、割合はもつとよくなつて、百に對する一に相當すると思ひます。即ち尋常小學校に入學する兒童百人のうち、一人の兒童が幼稚園の教育を受けて居ることになる。斯様な有様であるから我國の幼稚園教育は決して盛であると申すことは出来ません。外國の幼稚園に關しては近い統計を知てをりませんが、幼稚園教育が長足の進歩をしたと稱せられてをる北米合衆國は千九百二年度の調べによると、幼稚園の數が公私合せて四百五十四、幼兒數二十萬三千六百三十一人である。

佛國の幼稚園は千八百九十八年の統計に依ると本國と殖民地と合せて五千六百八十三、幼兒數七十二萬九千六百四十八人である。今日では遙かに其の數が増して居ると思ふ。これを我が國の幼稚園及び幼兒の數に比べるともとより霄壤の差である。併しながらこれを小學校の數に比すると、未だ充分の發達とは云はれないのであります。更らにフレーベル先生の郷國、獨逸ではどうであるかと云ふに、南獨逸のバイエルン王國には公立で幼稚園が没けてあるけれども、他の聯邦は多く私立である。全獨逸を通じてあまり發達して居るとは云はれないと思ふ。

△幼稚園教育の振はざる原因

斯くの如く幼稚園が思ふやうに發達しない原因は何處にあるか、明治四十一年にフレーベル會から文部大臣に建議されてあるが、その中に次の如きことが述べてあります。『維新以來我國百般の制

度文物が非常に進歩して、高等専門教育の擴張、普通教育の上進、殊に義務教育年限の延長の如き諸般の事項日進月歩の状を呈し眞に嘆稱すべきものがあるのに獨り幼稚園事業に至つては其成績の見るべきもの比較的少なく、其進歩の狀他と相伴はざるは遺憾である。幼稚園の振はないのは、一言で云へば上下一般が未だ之れに盡すの餘力ない爲であるけれども國民が幼稚園教育の必要を感知すること少なく、司政者、之が指導獎勵の道至らざる所あつて幼稚園に關する規程の他に比して十分なるに原因してをる云々』。成る程此の建議書に述べてあることも確かに幼稚園教育の振はない原因となつて居るのである。併しながら私の考へる所によれば主なる原因は教育系統上幼稚園の地位がはつきりして居らないと云ふことにあるのであらうと思ふ。御承知の通り、教育の施設には自治團體、又は私人經營の自由に任せて居るものと、自治團體をして必ず施設せしむることになつて居る

ものとの二種類ある。即ち市町村をして必ず設けさせるものと市町村或は一私人の自由に任せて置くものとある。普通教育で申すと高等小學校、實業補習學校の如きは自治團體の自由の施設に任せて居る。之に反して尋常小學校は必ず設けなければならぬものと成てをるので、自由ではない。處で自由の施設に任せてあるもの、中にも亦二種ある。一は一般に必要なものであるが、他方の經濟事情に依り一般に強制することが出來ないから經濟事情の許す限りに於て施設させるのである。一は全く土地の情況に由り施設するもので經濟事情が許しても其地方に必要なれば設けられないものである。例へば圖書館の如きは何處の地でも大切である、農業地方にも、商業地方にも必要なものである故に、經濟が許せば何處の地方でも設けるのが當然である。併し農業地方に農業補習學校を設け、商業地方に商業學校を設けることは經濟事情も關係するのであらうが、第一土地の狀況に由ら

なければならぬのである。

然らば幼稚園は如何なる種類に屬するかと云ふと、今日の制度では自由の施設に屬するものとなつて居る。それで土地の状況に由つて施設するのではなく、民力に由つて施設するのでもない。勿論幼稚園の中にも労働者の子供を預る幼児預所は労働者の多い土地に設くべきもの、即ち土地の状況によるべきものであるが、今日の我國の幼稚園は土地の状況に由らず、經濟が許さへすれば何處にも設けるのが當然なのである。幼稚園は地方民度により出来るならば設けるべきものとしたならば、地方經濟の豊かな土地には澤山設けてあるのが當然であると思ひます。然るに今日の實際はさうでなく、或る縣には幼稚園が比較的多く、或る縣には一向發達しない、その縣の經濟が許さないから發達しないといふのでなく、つまり其の地方の當局者、又は地方の人が幼稚園を設ける考を持つて居る地方にはあるが、その考を持つて居ら

ない地方では、たとひ民度及び土地の状況が許しても設置しないのである。

さういふ様に幼稚園が當局者及び土地の人の勝手の手考で設けられて居るのが、今日の事實であると思ふ。即ち幼稚園が教育系統の上に保つべき地位が明らかになつて居らぬ。それが爲めに出任せと云ふては極端かも知れぬが、或る處には澤山にあり、或る處にはちつともないといふやうに頗る雜である。故に幼稚園を盛にするには一般の教育系統上どういふ地位を保つべきかを明らかにしなければならぬ。

△幼稚園獨立の價値は 共同心の養成にあり

然らば幼稚園のとるべき立場といふ者は、どういふ處であるかといふと幼稚園教育者の主張は、幼稚園は家庭教育の缺點を補ひ、又は家庭と學校

との關係を繋いで圓滿ならしむるのであるといふのであります。又現行の小學校令施行規則にも幼稚園で保育するには其の心身を健全に發達せしめ、善良なる習慣を養ひ、以て家庭教育の缺點を補ふにありとして居ります。

これ等に就て私の考を忌憚なく申して見れば、私は幼稚園の立場を明らかにするは家庭及び學校の補助教育としてみるばかりでなく、教育系統上獨立の立場の存することを認めなければならぬ。それだけでなく幼稚園はあつてもよし、なくともよしと云ふことになる。家庭教育がよく行はれ、家庭と學校との聯絡がよくついで居るならば、幼稚園はいらぬものであるとの議論が生れてくるのである。私の考ふる所では、家庭が如何に立派で、學校との聯絡が如何によくついで居つても、矢張り幼稚園は大切である。何故に大切であるか、何故に幼稚園をそれ自身が獨立の價值をもつて居るかと云ふとは社會生活又は國民生活の要素と成

てをる共同精神を涵養すべき重要な機關であるからだと答へなければならぬ。

千九百九年の十月、獨逸の帝國議會の議事堂で全國の青年保護大會が開かれて國民教育に關する事がやかましい問題と成てあつた。その時バイエルンの首都ミュンヘンの教育課長をしてをるケルシエンスタイネルと云ふ人を聘して國民教育に就て一場の講演をして貰つた。その結果が小冊子となつて公けにされて居るが、其中に國民教育の大切な方便として共同作業を學校教育で獎勵しなくてはならぬと云ふ事を述べてある。學校教育に於て兒童が別々に仕事をせず、團體を作つて一緒に仕事をするのが共同作業である。例へば手工の如きを別々の仕事としてさせるのでなく、多くの子供に一つの品物を作らせるのである。共同一致の精神を有つてをることは一國民として大切な條件であるから共同作業に依て其精神を養成するのである。然るに此精神の養成は之を學校教育

にのみ任すべきものであるか、小學校に入る前には之に關してさう多く考へないでもよいものであるかと云ふに、自分の考ではこれは必ず小學校に入る前に養はなければならぬと思ふ。子供は小學校に入るすつと以前社會的生活を求めるやうに成て來る。その時に共同心の教育をしなければ立派な國民の土臺を作ることには出來ない。私の友人に丁度幼稚園に入れるべき年頃の子供をもつて居る人があります。其友人の話に『自分は幼稚園の教育にはあまり賛成しない、幼稚園をなくてはならぬものとは思はない。併しながら自分の子供には兄弟が無い爲め家にばかり置くと淋しがつて食べものなどばかりねだつてをる。さればとて近所には宜い友達もないからそれと遊ばせることも出來ない。それで止むを得ず幼稚園に入れるのである』とさう云つて居りました。その通りで幼稚園に入る頃になるとたゞ一人で遊ぶのを淋しがる、社會生活の要求が起つて來て兄弟がある子供は、一緒

に成つて遊ぶのであるが、一人ざりの子供は寔に淋しく感ずるのである。此の自然の要求が起る時に共同心を養ふことが大切であるが、家庭教育ではそれを十分に行ひ得ない。小學校へは學齡に至らなければ入れられないから、どうしても三才位から學齡までの間の特別なる教育が必要になる。その必要に應ずべきものが幼稚園である。さう考へると幼稚園は家庭教育のお手傳教育として成立つのでなく、立派に獨立の價値があるといふことを見出されるのである。

△幼兒保育の方針

幼稚園の立場を明らかにし、獨立の價値を認める方針をたてると、保育上にもいろいろ變更を要することが起つてくるのである。元來私幼稚園のことに不案内であるが、遠慮なく申すと、これ迄の幼稚園の方針に二つの異つたものがあり、或はそれが相混じて居ると思ひます。その一つは假に

學校的保育法と云ひ、一つを家庭的保育法と申しませう。伯林にあるベスタロッター・フレーベルのたてゝ居る幼稚園の如きは家庭的の保育を行ふて居る。室も家庭の様に小さい室にして、子供を一家族と見做して四五人づゝ入れ、丁度家庭の眞似をして居るやうなものである。その他一般の幼稚園は學校的の保育法をとつて居る。此の二つの仕方は或る程度迄はとつてよからうと思ふが、先刻申した様に、幼稚園の立場を別に考へると、今迄のやうな仕方ではいけない。一體學校の教育では共同の精神を充分に發揮する事は出来ぬ。なせと云ふに種々の教科を授けなければならぬ。それからまた教室に入れてあまり自由に活動させることは出来ぬ。今日の學校はさう窮屈にもしては居られないが、學校教育の元來の性質を分析して考へてみると、さう自由に教育することは出来な事情の下にある。瑞西の或る教育者は時間を定めないうで、自由に遊びをする間に國語を教へ、算

術を教へようとしてゐるが、中々さうは行かない。學校教育では或る程度迄規律を正しくして、自由の活動を許さない性質を帯びなければならぬ。さうすると自由に一緒になつて働くことが出来ないから、共同心を養ふには都合が悪い。然るに幼稚園の仕事は決してさう窮屈なものでない、自由に働かして、一緒にさせるのであるから、共同の精神を養ふことは、もし方法が宜しきを得れば、學校教育よりも優つて居るのである。それを窮屈な學校教育の眞似をして、幼稚園教育がもつて居る自由な長所をなくすることは賛成することが出来ない。これ等は幼稚園が學校教育の準備をするものであると云ふ考が勝て居るために左様な結果を來すのである。準備も大切であるが、幼稚園を自身に尊い目的がある。その目的を達するため働くのが大切である。幼稚園の上級になると規律をつけて學校生活の準備をするやうにせられてゐるが自分の考では寧ろ小學校の一學年に幼稚園

の眞似をさせる方が宜いと思ふ。獨逸の教育界では近頃初學年の教育を幼稚園の如く自由にしようと思ふ運動があります。幼稚園の眞似をさせるのは寧ろ當然であるが、幼稚園が學校の眞似をするに及ばないと思ひます。

△所謂家庭的保育の誤謬

學校なり幼稚園なりが家庭になり代つて教育をするといふことは非常に受けのよい意見である。併しよく考へるとこれには余程缺點がある。學校に就て云ふと、寄宿舎の設備を家庭らしくすると云ふことは近頃よく主張される所であるが、大勢の生徒を泊めて置く寄宿舎の如き必ずしも家庭的でなければならぬとは云ひ得ない。家庭の親子の感情を以て結ばれて居るのであるが學校はさうでない。舎監や教師が其生徒に對するのは眞の父母の如く親切に、やさしく世話をすべきものであることは勿論であるが、併しながら如何に考へても

生徒は他人の子である。他人の子を自分の子と考へることは出来ないことでもあり又強ひてさう考へる必要も無いと思ひます。やはり他人の子供と考へて差支ないのである。それであるから寄宿舎の如き無理に家庭的にする必要はないと思ひます。幼稚園に於ても同じことで、家庭教育が不十分なために幼稚園の必要があるといふならば、その不十分な家庭の眞似をするのでは幼稚園の必要はないのである。やはり幼稚園の特別の長所を發揮させ、社會生活の趣味、共同心の養成をすることが大切である。

幼稚園教育は學校の眞似をすべきものでもない、又家庭の眞似をすべきものでもない、如何なることをすべきであるかと云へば前に申した様に、共同精神を涵養することに努めるのである故に幼稚園の仕事は各自勝手に遊ばせるのでなく、團體に共同の仕事をさせて、保姆がそれを監督するのである。共同作業は即ち他日國民となつた時、

町村民として活動し、日本國民としての義務を果すの基礎を造るものである。

斯様な見地からすると幼稚園を自由勝手に設けるものとして置くことは出来ない。國民教育の大切な土臺を作る教育として、尋常小學校の如く、一種の義務教育としてもよいものであるかも知れない。今日の幼稚園は果して義務教育とするだけの働らきをして居るかと云ふに、遺憾ながら然りと

答へることは出来ない。要するに幼稚園教育は家庭教育の助けをするばかりのものでない。如何に家庭教育が立派でも手の届かない部分がある。そこを幼稚園で教育する。又學校教育によりても手の届かない處がある。そこを立派に教育するのであるといふ考で改善を加ふることが幼稚園教育の發達の爲めに必要であると思ひます。

英文學にあらはれたる子供 (六)

東京女子高等師範學校教授 岡 田 み つ

『トム』と『マギー』 (つみ)

— 御菓子で又一喧嘩 —

ある水曜日の事、伯父さん伯母さんがその翌日大勢御客に來るといふので、御菓子を焼く匂だの、汗の養える馨りだのが臺所に漲つてゐて、何となく樂みで、陰氣らしくはして居られない日であつ

た。『トム』と『マギー』は幾度か臺所へ押し掛けて行くので、臺所では、その都度相當の獲物を渡しては、當分は侵入して來ぬやうにと頼むのであつた。